

++++
◇日本学術会議 近畿地区会議学術講演会

「食と文化—歴史から未来へ」の開催について（ご案内）

◇日本学術会議化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同触媒化学・化学工
学分科会、からのお知らせ

公開シンポジウム『人工光合成』の開催について（ご案内）

◇日本への国際会議誘致に関するアンケート調査

（観光庁からのお知らせ）【再掲】
++++

■-----
日本学術会議 近畿地区会議学術講演会

「食と文化—歴史から未来へ」の開催について（ご案内）
-----■

◆日時：平成 27 年 11 月 7 日（土）13:00~17:00

◆場所：奈良女子大学講堂（奈良市北魚屋東町）

◆主催：日本学術会議近畿地区会議、奈良女子大学

◆次第：

・開会の挨拶

梶 茂樹（日本学術会議近畿地区会議代表幹事、京都大学大学院アジア・アフリ
カ地域研究研究科教授）

今岡 春樹（奈良女子大学学長）

井野瀬 久美恵（日本学術会議副会長、甲南大学文学部教授）

・趣旨説明

上野 民夫（日本学術会議近畿地区会議学術文化懇談会委員、京都大学名誉教授）

・基調講演

「風土がはぐくんだ食の文化—過去・現在・未来」

佐藤 洋一郎（人間文化研究機構理事）

・報告

「食の歴史—万葉の文化と食」

伏木 亨（龍谷大学農学部教授）

「現代日本の栄養不良を考える」

久保田 優（奈良女子大学名誉教授、龍谷大学農学部教授）

「食の未来—近大マグロ」

熊井 英水（近畿大学名誉教授）

・全体討論

・閉会の挨拶

小路田 泰直（奈良女子大学副学長）

・総合司会

三成 美保（奈良女子大学研究院生活環境科学系教授、日本学術会議会員）

◆参加申込：不要

◆参加費：無料

◆詳細はこちら

<http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf2/216-s-1107.pdf>

◆お問い合わせ先：日本学術会議近畿地区会議事務局（京都大学内）

TEL：075-753-2270 FAX：075-753-2042

■-----
日本学術会議化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同触媒化学・化学工
学分科会、からのお知らせ

公開シンポジウム『人工光合成』の開催について（ご案内）
-----■

・日時 平成 27 年 12 月 9 日（水）13:00~18:10

・場所 日本学術会議講堂

・主催 日本学術会議化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同触媒化
学・化学工学分科会、

文部科学省研究費補助金 新学術領域「人工光合成による太陽エネルギーの物質変換：実用化に向けての異分野融合」(AnApple)

科学技術振興機構人工光合成化学プロセス技術研究組合(ARPCHEM)「二酸化炭素原料化基幹化学品製造プロセス技術開発(人工光合成プロジェクト)」

- ・共催 東京理科大学研究戦略産学連携センター
- ・後援 なし

・開催趣旨 地球規模でのエネルギー・環境問題の解決および化学工業における新たな産業創成として、人工光合成技術の確立が強く望まれている。人工光合成技術が確立できれば、化石燃料を消費せずに、太陽光をエネルギー源、水と二酸化炭素を原料として、水素、ガソリン、オレフィン等のソーラーフュエルやソーラーケミカルを製造することができるようになる。そのため、世界中でソーラーフュエル製造を目指したプロジェクトが走っており、数多くの国際会議が開催されている。日本においても文部科学省研究費補助金 新学術領域「人工光合成による太陽エネルギーの物質変換：実用化に向けての異分野融合」(AnApple)、科学技術振興機構「低エネルギー、低環境負荷で持続可能なものづくりのための先導的な物質変換技術の創出」(ACT-C)、人工光合成化学プロセス技術研究組合(ARPCHEM)に代表される人工光合成研究プロジェクトが走っている。日本のプロジェクトの一つの特徴として産官学が協力して、人工光合成の確立に向けて取り組んでいることが上げられる。そこで、本シンポジウムでは、プロジェクト総括、および産官学を代表する研究者による講演を通して、日本における人工光合成研究の最前線を紹介し、参加者およびプロジェクト間の情報交換・意見交換をすることを目的とする。そして、オールジャパンとしての今後の方向性を探っていく。

・次 第：

13:00-13:30 趣旨説明、人工光合成とは、世界の研究動向

工藤 昭彦(日本学術会議連携会員、東京理科大学理学部応用化学科教授)

13:30-14:10 科研費新学術領域およびJST さきがけプロジェクトにおける人工光合成関連研究

井上 晴夫(日本学術会議連携会員、首都大学東京 人工光合成研究センターセンター長、新学術領域「人工光合成」代表、さきがけ「光エネルギーと物質変換」研究総括)

14:10-14:50 JST ACT-C プロジェクトにおける人工光合成関連研究

國武 豊喜(公益財団法人北九州産業学術推進機構理事長、国立研究開発法人科学技術振興機構 ACT-C 研究総括)

14:50-15:30 NEDO 人工光合成プロジェクトの紹介と産業界から見た人工光合成技術

瀬戸山 亨((株)三菱化学科学技術研究センター瀬戸山研究室室長、三菱化学(株)フェロー、人工光合成プロジェクトリーダー)

15:30 休憩

16:00-16:40 官側からの視点「人工光合成による水素と有用化学物質製造」

佐山 和弘(産業技術総合研究所太陽光発電研究センター首席研究員)

16:40-17:20 大学からの研究成果「光触媒材料を用いる水分解反応」

堂免 一成(東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻教授)

17:20-18:00 産業界からの研究成果「水と二酸化炭素からギ酸を合成する人工光合成技術の現状」

森川 健志(株式会社豊田中央研究所森川特別研究室室長)

18:00-18:10 閉会の挨拶

阿尻 雅文(日本学術会議第三部会員、東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授)

<お問い合わせ・申し込み先>

東京理科大学 工藤昭彦

Email: a-kudo@rs.kagu.tus.ac.jp

■-----
日本への国際会議誘致に関するアンケート調査
(観光庁からのお知らせ)【再掲】

観光庁では、国際会議の誘致・開催の国際競争力強化を検討するうえで、大学関係者の方々や研究者の皆様のニーズ把握のためのアンケート調査を、今回行わせていただきたいと思います。

本アンケートは、日本における国際会議の誘致力向上に向けた施策の参考とすることを目的に実施いたします。

お忙しいところお手数をお掛けしますが、学術振興のため、ぜひ御協力をお願いいたします。

ご回答は下記の URL からお願いいたします。

<https://truenavi.net/enq/convention.html>

回答受付期間：2015年10月23日～11月8日

本調査は、観光庁より委託を受けた下記の機関が事務処理を実施しています。
本調査の内容及びご回答方法等についての疑問点、ご質問等がございましたら、
下記担当者までお問い合わせください。

(株)野村総合研究所 社会システムコンサルティング部 八亀、溝口、岡村

TEL: 03-5533-2203、FAX: 03-5533-2900

★-----☆

日本学術会議では、Twitter を用いて情報を発信しております。

アカウントは、@scj_info です。

日本学術会議広報の Twitter のページはこちらから

http://twitter.com/scj_info

学術情報誌『学術の動向』最新号はこちらから

<http://www.h4.dion.ne.jp/~jssf/text/doukousp/index.html>

=====

日本学術会議ニュースメールは転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようお取り計らいください。

本メールは、配信専用のアドレスで配信されており返信できませんので、あらかじめご了承ください。本メールに関するお問い合わせは、下記の URL に連絡先の記載がありますので、そちらからお願いいたします。

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34